鈴木信太郎名誉会員のご逝去を悼む

明星大學名誉教授 広瀬盛行



写真平成18年2月 北区都市計画審議会会長席にて。

都市計画を選んで約60年間,都市計画の道一筋を歩み続け,多くの功績を残された鈴木信太郎先輩が,去る9月27日に突然ご逝去された。享年82歳であった。

喜寿を越えても著書の出版,数多くの自治体における都市計画審議会会長として活躍,大学においても後輩の指導に励まれ,更に夢を持ち続けられていられただけに,惜しまれる。

鈴木先輩は、大正13年に東京・日本橋に生まれ、 早稲田大学時代、非常勤講師で招かれていた石川 栄耀先生の講義に魅せられ都市計画の道を歩むこ とを決心したと、生前よく言われていた。卒業研究 の指導も石川先生で、テーマは「多摩地域における 都市計画」、先生から「それじゃあ、俺の役所にきて、 勉強しろ」と言われて、机が都庁都市計画課の片隅 に置かれた。

この時から大きな足跡を刻むことになった東京都市計画人生が始まることになる。

昭和23年11月, 念願叶って東京都に採用され, 最初の配属は都市計画課地方計画室(室長 井上孝) であった。上司に恵まれ「東京復興計画に即応する 東京大都市圏」に関する調査研究に携わり,多くを 学んでこられた。昭和25年頃からは東京の都市計 画で最も重要な課題となってきた都市交通問題の 対策に備えて,路上駐車実態調査(昭和26年から), 自動車起終点調査(昭和27年),都心部交通量調査(昭和28年)等をリーダー格として実施し,昭和31年には「東京都市計画の道路の現況と将来」と題する道路白書を編集した。この白書が,その後における日本の都市交通調査技術の進歩並びに東京の駐車場対策,都市高速道路網計画等に果たした役割は極めて大きいと評価されている。この初期の時代には,今とは異なってコンサルタントも,調査費も無かったが,日本大学の市川先生の協力で学生200名程度,演習の名目で調査協力を得た話は今でも語り続けられている。

鈴木先輩は、その後も常に東京都市計画の中枢に在り、世界最大の大都市圏に成長した中心都市東京の持続発展を可能にした基盤施設(公共駐車場、都市高速道路、街路網の再検討、地下鉄、鉄道輸送量の増強計画、エアーターミナル、トラックターミナル、副都心計画等)計画の決定と、その事業化に尽力され、その激務の中にあって、マニラ大都市圏交通計画、都市計画学会日中交流、サウジアラビア・クエート交通調査団、中国深圳市都市計画委員会顧問等国際協力にも大きく貢献されてきた。

昭和55年都市計画局技監を最後に都庁を退職されたが、その後も数々の要職に携わり、昭和60年からは早稲田大学大学院講師、平成6年以降は理工総研客員研究員として後輩の指導と都市計画研究

に励まれてきた。平成5年に出版された「都市計画の潮流,山海堂」の著書(石川賞)は大学院での講義を集大成したものであった。更に喜寿を迎えて記念出版された「私の都市計画生活,山海堂」は戦後の東京都市計画を知る点においても貴重な文献となっている。

今顧みると、鈴木先輩は日本都市計画の巨匠、理想を求め続けた石川栄耀先生と計画の実現に辣腕を発揮し続けてこられた山田正男元都市整備局長を直接の上司として、多くを学び、その教訓を自ら実践し、それを後輩に伝えていく貴重な存在であった。又最近では、自らが参加してきた「東京都市計画の評価」を自らの目でしっかりと確かめたいと、常に考えていられる様子であった。

昨年の暮れから一時体調を崩されたと伺ったが, 年明けには回復され、多少声が細くなっていられたが、 以前と同様に中央、港、品川、北、江東の各区都市 計画審議会会長の責務も果たされていた。人生の終 わりの旅に立たれる一週間前には区の都市計画審 議会に出席されていたとのことであった。突然の訃 報に接し、驚きと無念さは未だ去らないが、我々子 弟は鈴木先輩の志を継承してゆくことを誓いながら、 哀心よりご冥福をお祈り申し上げます。

尚,終わりに,鈴木先輩が日本都市計画学会創設の時期に,事務局が都の都市計画課内にあって,初代副会長の石川栄耀,北村徳太郎両先生のご意向を受け,理事会の開催,会員の確保,会費の調達,学会誌の発行等,正式な事務局が発足するまでの間,一切の学会事務を担当されてこられたが,そのご功績もあって,平成13年に都市計画学会功績賞を受賞されたことを報告させて頂いておきます。

故鈴木信太郎先生のご逝去を悼む

元東京都技監, 元首都高速道路公団副理事長 岡本堯生

鈴木信太郎先生が本年9月27日に82歳の生涯を 閉じられた。訃報を聞いて直ちに自宅にお伺いし、 穏やかなお顔を拝見するにつけ、信じられない思い で一杯であった。

実は、首都高速道路のネットワークの発展に関して、昭和30年前後の頃のお話が伺いたく、9月初旬にお会いする約束をしていたのだが、気分がすぐれないとのことで、後日質問事項に対し手紙で丁寧な回答をいただいたばかりであった。今にして思えば、病状も進んでいたことであろうに、最後の最後まで誠実に対応していただいたことに、心から感謝している。

振り返れば鈴木先生には、これまで40年以上の 長きにわたり、公私共々お世話になってきた。先生 の分け隔てない親しみやすいお人柄を慕い、兄貴分 としてご指導をお願いしてきた後輩は数多い。

鈴木先生は、大正13年に日本橋でお生まれになったチャキチャキの江戸っ子である。ご父君は築地の場内市場で「虎忠」という中卸の店を営む鮮魚屋さん。先生が都市計画の道に進まれたため、店は弟さんが継がれた。ちなみに母方の叔父上は、紀伊国屋の有名な故田辺茂一さんである。

鈴木先生は, 早稲田大学で石川栄耀先生の薫陶

を受けられ、昭和23年に石川先生が建設局都市計画課長を務めておられた東京都に入られ、念願どおり都市計画の道へと進まれた。

昭和33年から4年間首都圏整備委員会事務局に おいて、見識と人脈を広げられた。昭和37年に都に 戻られてからは、一貫してかの有名な山田正男さん のもとで、東京都の都市計画一筋に歩いてこられた。 すなわち、一般街路、高速道路、地下鉄、鉄道の連 続立体交差、公共駐車場、流通センター、東北新幹 線等の交通施設計画は勿論のこと、新宿や池袋の 副都心計画、各地の再開発、土地区画整理から上 下水道に至るまで、東京都の都市計画の幅広い分 野について指導的な役割を果されたのである。

この間,外郭環状線や高速道路5号線の延伸計画, 小田急や西武池袋線の連続立体交差計画等では, 自ら厳しい地元説明の陣頭指揮にあたられた。私も お供をして,随分胃の痛くなる思いをしたものだが, 野次と怒号の中,あの温厚な鈴木先生が毅然として 対応されたのには感服した。

昭和55年に都市計画局技監を最後に都を退職されてから,日本自動車ターミナル(株)の常務取締役を務められる一方,早稲田大学理工学研究科講師として後進の育成指導にあたられた。またいくつか

の区の都市計画審議会の会長を務められるなど,後々 に至るまで東京都の都市計画の発展のために尽力 されてきた。

一方, 若くして「新しい都市計画の方向」(昭和37年, 山海堂)を出版されたのを初め, 数多くの著作を世に出された。そして平成5年には, ご労著「都市計画の潮流」で都市計画学会石川賞を受賞された。また平成15年には,「私の都市計画生活」を上梓され, 鈴木さんの衰えることない情熱と精力に感嘆したものである。このような業績が認められ, 平成6年には勲4等瑞宝章を, また平成13年には都市計画学会功績賞を受賞されたのである。

鈴木先生は、温和にして柔軟かつ誠実なお人柄で、 ついぞ怒声をあげられた姿を見たことがないが、職 務につては常に大局をみて判断され筋を通された。 しかし一旦仕事を離れると、気さくに我々後輩と交 流され、銀座や四谷、新宿を飲み歩いた思い出は数 知れない。

よき先輩としてまだまだこれからも我々を導いていただけるものと思っていた矢先に急逝され、痛恨の極みである。鈴木信太郎先生からこれまでに賜ったご厚情に心からお礼を申しあげ、ご冥福をお祈りする次第である。